

公益社団法人 全国学校栄養士協議会報	令和6年8月 第84号
	発行 公益社団法人 全国学校栄養士協議会 電話 03 (6380) 4360

全学栄ホームページ <https://www.zengakuei.or.jp/>



暑中お見舞い申し上げます。

皆様には、日頃から、本協議会事業の円滑な運営について、多大なご協力・ご支援を頂いておりますこと、心から御礼申し上げます。

栄養教諭は、児童生徒に対し、望ましい食習慣を身に付けさせるとともに、食への正しい知識や適切な判断力を養うことを目的に、日々職務に取り組んでいます。

しかしながら、児童生徒の偏食や肥満・痩身・食物アレルギーなど食に関する健康課題は顕在化しており、増加傾向にあることが指摘されています。私たちは、今、栄養教諭としてその専門性に基づき、個々の児童生徒に寄り添い、各自が抱える食に関する個別的な課題の解決に向けて、取り組む力が求められています。

本協議会では、昨年度に続き、文部科学省委託事業「食に関する健康課題対策支援事業」に、2年目の受託をいたしました。現在、各都道府県・自治体から事業の取り組みに手を挙げていただき、スタートしたところです。

本事業を通して、「個別的な相談指導体制の確立を図る。」「個別的な相談指導のポイント、課題解決等のノウハウなどの取組事例を収集し、事例集を作成・配布して、全国に波及させる。」「栄養教諭の個別的な相談指導力の向上を図る。」等の、ゴールを目指します。

今年度、委託事業として直接の実施はしない自治体、又は会員にあっても、この動きをしっかりと自分事としてとらえ、日々の職務の取り組みの中に個別的な相談指導を位置付けていただきたいと思います。

かけがえのない成長期に、情熱をもって職務に当たる栄養教諭と出会えることは児童生徒にとっても大きな財産になるはずです。まずは頼られる栄養教諭を目指しましょう。

多くの使命を担い、忙しい日常ですが、流されることなく、栄養教諭でなければ果たすことができない職務に力を注いでいただきたく思います。

全学栄は、そんな皆様の研鑽の場(講習会等)を提供していきます。組織力を確かなものにして、頑張ってください。

会長 長島 美保子



〈目次〉

- ウェルボディ教育と栄養教諭に期待するもの…………… 2～3
- 各部の報告…………… 4～6
- 全学栄救給シリーズの紹介…………… 6
- 第19回食育推進全国大会(大阪府)に参加して…………… 7
- 第2回全国学校給食・栄養教諭等研究協議大会(茨城県)のご案内 …… 7
- 都道府県だより…………… 8



ウエルボディ教育と栄養教諭に期待するもの

大阪母子医療センター臨床検査科 主任部長 位田 忍

I 小児栄養に関わる小児科医から栄養教諭へ期待するもの

小児の栄養管理の目的は、生命の維持に加え、良好な発達と身体的成長をめざし、心身ともに健康なウェルビーイングな生活が送れるように支援することにある。そのためには小児の特徴を理解する必要がある。1)「成長・発達」し、養育者からの保護が必要な「受動的」な時期の後、二次性徴を経て、身体的にも精神的にも「自律・自立」し成人になる。2)この成長・発達に栄養の量と質が大きく関与する。脳の発達に関与し、栄養過多になると肥満、栄養不足になると、低身長・やせを来す。3)小児特有の生まれつきの病態(例えばダウン症など)があり、時期(新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、青年期)により栄養学的にも特徴がある。4)地域全体でこどもの成長を支える仕組みとして、家庭教育、学校教育、(地域)社会教育がある。それぞれで行われる知育、体育、徳育とその基礎になる食育により生きる力が育つ。

「栄養と食の専門家」である栄養教諭は、児童生徒全体に給食を通じた食の提供だけでなく、近年は肥満ややせに対する個別指導が求められている。健康問題に至るには栄養学的な知識の不足や心理的背景があり、解決のために、こどもや保護者への情報提供とともに、かれらの声を聴きエンパワーメントし、ウェルビーイングサポーターの中心となっていただきたい。その力を発揮するための仕組み作りも必要で検討中である。

II 若年女性の状況打開のための内閣府第3期SIPとウエルボディ教育

本邦の若年女性の自己肯定感が低く、やせ(BMI18.5<)の割合が先進国の中で一番多く、理想体型はBMIが17.4であり、糖尿病、骨粗しょう症、月経不順などの本人の健康問題も生じている。低出生体重児の出産とも関連し、次世代である小さく生れたこどもは少食で、大きくなりにくく、急激なキャッチアップはメタボリックシンドロームの発症リスクとなる(人生最初の1000日の栄養の重要性、DOHaD学説)。

内閣府第3期SIP(戦略的イノベーション創造プログラム)の中で田村好史を研究代表として「女性のボディイメージの偏りを是正し、体型に関す

る包摂性を高めること、若い女性に伴う健康リスクを軽減すること」を目的に、社会的ムーブメント、ウエルボディ教育、健康支援技術の開発の3つの要素に焦点を当てて活動を開始している。健康支援技術の開発では若年女性のやせの健康障害についてのエビデンスを作り、「やせ症」の定義が検討されている。社会的ムーブメントでは若年期のやせを「社会課題」として捉え、学生や企業やメディアでの取り組みを進めている。

小学校学習指導要領第1章総則第1の2の(3)で、小児期にすこやかな成長と発達を促し、生涯にわたる健康維持や疾病予防のための健康教育・指導を行うとされているが、現状は不十分であると言わざるを得ない。そこで、ウエルボディ教育チームでは、既存の教育界の手法に加えて医療界との連携により、諸外国ではすでに行われている、心と体の健康をめざす「ウエルボディ教育」の導入推進を開始した。まず行った小学生への調査で、低学年から「やせたい」と思い、食事を控え運動するといったダイエット行動があり、高学年になるとその割合が上がるのが分かった(未発表データ)。偏った「理想の身体」が心に根付いた状態で成長し価値観となっていることが伺われた。

III 小児期・思春期のやせ

小児期のやせには、2つの概念がある。1つは身長に対して体重が軽い状態で、肥満度-20%以下である。もう一つは体重増加不良あるいは体重減少の状態である。やせは栄養障害の指標でもあり、やせが長期にわたると多臓器の障害や身長増加不良、思春期発来が遅れ、思春期の進行が停止し、無月経や骨塩量低下を生じる。やせをきたす病態には体質性やせ(健康障害がない)と症候性やせがある。症候性やせには摂食障害やアスリートのやせが含まれ、脳腫瘍や糖尿病など全身疾患の鑑別を要する。学校保健安全法施行規則の一部改訂が平成26年になされ、身長曲線・体重曲線等の成長曲線を描き、症候性のやせや肥満を早期に発見することが推奨された。成長曲線は栄養状態の評価法として全世界で使われているが、一般教員も保護者も成長曲線を十分には活用していなかった(未発表データ)。「症候性やせからこども守る」ためにも成長曲線の活用が望まれる。

IV 体格・容姿のボディイメージ(ウエルボディ)教育

ウエルボディ教育は、ウェルビーイングの実現の一環として、自分の健康な身体を知り、身体・容姿をありのまま好意的に受け入れ、感謝し、自他を大切にできる能力の育成を図る教育である。そのために健康(運動・身体活動を含む)・保健・食育・心理など多様な視点の教材を通じ、ボディイメージが個人の気持ちや行動に影響することを学び、周りの人にも外見の理想を押し付けない姿勢を培うことが目標で、これにより低学年からの unnecessary ダイエット行動が減少することを望んでいる。

ウエルボディ教育を子ども達に届けるために、ウエルボディ研修会の開催と補助教材の作成を予定している。研修会の主な対象は栄養教諭・養護教諭など健康教育に関わる先生方であり、研修を受けることで学校の中でウエルボディ教育のリーダー的存在(ウエルボディアドバイザー(仮))となるような制度の確立も目指している。研修会の開催については長島会長に協力をいただき、企画委員会に全国学校栄養士協議会から委員も出いただき、現在コンピテンシー(表 ウエルボディ研修会(仮))をもとに内容を検討中である。

V 小児栄養分野推進合同協議会

小児の特性を理解した小児栄養の専門家養成のため、日本臨床栄養学会、日本臨床栄養協会、日本栄養士会(日栄)、日本小児科学会をはじめ多くの小児疾患の分科会が集まり小児栄養分野推進合同協議会(以下協議会)を立ち上げた。日栄の小児栄

養分野管理栄養士・栄養士認定制度に学術的に協力し2024年4月に147名の認定者が出て、今年度も進行中である。E-learningは小児病院や小児病棟で勤務する管理栄養士・栄養士だけでなく、保健所などの行政機関の栄養士や保健師や学校・保育園などの教育現場で食育や健康教育に関わる栄養教諭、養護教諭等にとっても有用な学びの場になっており、個別の栄養指導への対応時に参考になると考える。

SIPのウエルボディ教育研修会の受け皿にもなっている。

VI こどもまんなか社会の実現に向けて

現在、こどもが置かれている社会状況は、いじめ、虐待、貧困、ヤングケアラー、不登校、自殺といった重要課題が山積みで厳しい。2023年12月にこども家庭庁からこども大綱が閣議決定した。その中で、全てのこども・若者が身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができる「こどもまんなか社会」を目指すことがまとめられた。目標の中に「今の自分が好きだ」と思う(自己肯定感の高さ)割合、「自分には自分らしさというものがある」と思う割合、「どこかに助けしてくれる人がいる」と思う割合の増加などがあげられており、ウエルボディ教育の目指すところと一致している。共稼ぎ家庭が増えて、大人に時間がなく、スキルもない状況で家庭教育があまり機能していない。その中で学校教育で栄養教諭・養護教諭が中心になってウエルボディ教育を進めることのできる仕組み作りによって、「こどもまんなか社会」の実現に寄与できると考えている。

表 ウエルボディ研修会(仮)

- KGI(実現したい社会): 児童生徒が見た目の多様性を受け入れ、自身の見た目を受容できるための実現・持続可能な教育モデルの構築
- KPI: 児童生徒の「必要のないダイエット行動」が減少

- ・「ウエルボディ教育」: ひとりひとりが自分らしく、心地よくあり続けられる健康な体を、自らの意思で選択できる社会を作るための教育
- ・「ウエルボディ教育」を普及させるため、主な対象は養護教諭・栄養教諭を中心に指導主事、健康教育を行っている保健体育、家庭科他の先生であり、先生方の知識と技能を高めるために開催する。
- ・ウエルボディ研修会のコンピテンシーを4つの視点から定める
 - 1) 体づくりについて
 - ①小児の成長発達を理解し、食事、運動、睡眠などの生活リズムや成長曲線について説明することができる
 - ②痩せや肥満が及ぼす健康問題を理解し説明することができる
 - ③二次性徴の体の変化について解剖学的生理学的な機序を理解し説明することができる
 - 2) 心づくりについて
 - ・見た目の多様性について知ることができる
 - ①身体そして見た目は自分の構成要素の一つでしかなく、それだけで自他の価値が決まるわけではないことを理解し説明することができる
 - ②他者との外見比較の弊害を理解し説明することができる
 - ③見た目は人それぞれ違うのがあたりまえであり、個々人にとって適した体格や体重も違うことを理解し説明することができる
- ・身体の捉え方とその結果起こることについて知ることができる
 - ①ボディイメージが認知、感情、行動の構成要素を有することを理解し説明することができる
 - ②ボディイメージの側面のどれかがネガティブになったときに起こりうる心や体の健康の様々な問題を説明することができる
 - ③ポジティブボディイメージを理解し説明することができる
- ・身体の捉え方に何が影響するかについて知ることができる
 - ①他者(家族、友人など)の言動がボディイメージに与える影響を理解し説明することができる
 - ②メディアがボディイメージに及ぼす影響を理解し、どのように向き合うべきかを説明することができる
 - ③二次性徴に代表される心や体の発達の变化とそれらの変化がボディイメージに及ぼす影響を理解し、そういった自身の変化をどのように受け入れていくべきかを説明することができる
- 3) 保護者への対応について
 - ・保護者に健康支援について情報提供することができる
- 4) カリキュラムマネジメントについて
 - ・学校でのウエルボディ教育を、保健・体育・食育などの様々な教科を関連付けながら取り組むことができる

総務運営部

総務運営部は、会の運営に関する事項全般を担当しています。

- 総会、理事会、都道府県代表者会の運営
- 事業推進、予算、決算
- 全国学校給食・栄養教諭等研究協議大会の主催(文部科学省等と共催)
- 各種検討委員会の運営
- 関係団体への協力
- ホームページの運用
- 「食に関する健康課題対策支援事業」の運営(文部科学省委託事業)

1 第51回定時総会

6月7日(金) 定時総会を行い、令和5年度事業及び収支決算の報告等について審議され、全て承認されました。

2 第1回全国学校給食・栄養教諭等研究協議大会

8月1日(木)～2日(金)、長野県長野市において、文部科学省、開催地の教育委員会等と共に、学校給食の在り方について研究協議を行い、関係者の資質の向上を図りました。併せて、学校における食育の推進と児童生徒に対する食に関する指導の在り方や学校給食の充実方策について研究協議し、栄養教諭等の資質向上を図る大会を主催しました。

3 栄養教諭のためのカリキュラム検討委員会

今年度は、持続可能な社会づくりに貢献する人材育

成に資するため、学校における食と関連する環境プログラムを作成し、食で深める環境教育の指導展開例をまとめた冊子を新しい食育として作成する予定です。

4 食育月間事業

第19回食育推進全国大会(大阪府大阪市:6月1日(土)～2日(日))に参加しました。国の施策を広めるため他団体と連携して食育活動を行いました。

5 関係団体への協力

秋のキッズフェスタ(「早寝早起き朝ごはん」全国協議会主催:10月5日(土))に参加し、ワークショップ、パネル展示、啓発資料の配布を行う予定です。

6 ホームページの運用

本会事業の紹介や調査研究結果等を開示しています。会員のページも更新予定がありますので、ご覧ください。

7 「食に関する健康課題対策支援事業」の運営

今年度も、単年度事業として文部科学省から委託を受け、栄養教諭が行う食に関する個別指導力の一層の向上を図るための事業を取りまとめます。研究部、研修部と共に取り組みます。

研修部

研修部は、各種講習会の運営等を担当しています。

1 各種講習会

夏季講習会と食育推進講習会(一般コース)はインターネットによるWEB配信で、食育推進講習会(データ解析・論文コース)は対面での講習を予定しています。

●第60回学校給食夏季講習会「初めて学ぶ、学びなおす」

到達目標: 栄養教諭として教材化の視点に立った献立作成や調理指導ができる。
食に関する指導に係る全体計画に基づいた指導を推進することができる。
期日: 7月20日(土)～21日(日)

●食育推進講習会 一般コース「個別的な相談指導の手法を学ぶ」

到達目標: 個別的な相談指導の進め方を理解し、取り組めるようになる。
食物アレルギー対応や著作権について理解を深める。
期日: 11月9日(土)～10日(日)

**●食育推進講習会 データ解析・論文コース
「データを活用し発信する」**

到達目標: アンケート作成をし、指導の評価を行うことができる。
栄養教諭としての取組を実践研究としてまとめ、発信できる。
期日: 10月25日(金)～27日(日)

●文部科学省委託事業「食に関する健康課題支援事業」

全体研修: 8月21日(水)～22日(木)

2 食育に関する調査研究等に対する助成事業

食育に関する研究を行うグループに10万円の助成を行っています。助成を受けたグループの研究成果は、この会報の紙面での発表を予定しています。



研究部

研究部は、児童生徒の健康増進及び食育推進に関する調査研究と栄養・衛生・安全管理の徹底を図る事業を担当しています。

1 ICT活用のためのデータ収集

栄養教諭の職務遂行のインフラとして ICT の積極的な活用が推奨されている一方で、インターネット上の画像利用により発生した著作権関連の問題も起きています。そこで、各都道府県から地場産物を中心とした食品写真データを集め、本協議会会員が無償で利用できる共有データとして、インターネット上に限定公開をします。後日会員へお知らせする QR コードから共有ドライブを開き、各自ダウンロードして、食に関する指導や職務における資料作成にご活用ください。

【公開予定食材一覧表】

赤	黄	緑		その他
【肉類】 ①うし ②にわとり ③ぶた ④くじら 【魚介類】 ⑤かつお（かつお節） ⑥さけ ⑦さば ⑧ぶり ⑨かまぼこ ⑩しじみ 【豆類・藻類】 ⑪だいず ⑫納豆 ⑬あおさ	【穀類】 ⑭ふ（すだれ麩） 【いも及びでん粉類】 ⑮こんにゃくいも ⑯さといも ⑰じゃがいも	【野菜類】 ⑱アスパラガス ⑲えだまめ ⑳えんどう ㉑かぶ ㉒かんぴょう ㉓キャベツ ㉔きゅうり ㉕くわい ㉖ごぼう ㉗こまつな ㉘だいこん ㉙たけのこ ㉚たまねぎ ㉛なす ㉜ニラ ㉝にんじん	⑳大塚にんじん ㉑ほうれんそう ㉒れんこん 【きのこ類】 ㉓きのこ（えのき・しめじ） ㉔しいたけ 【果実類】 ㉕いちご ㉖すいか ㉗すだち ㉘なし ㉙パインアップル ㉚ぶどう ㉛みかん ㉜りんご	【嗜好飲料類】 ㉝茶 



2 研究授業方式による衛生管理研究会

令和5年度に各都道府県から報告された衛生管理研究会の事例の中から、参考になる取組と共に、異物混入防止対策の事例を紹介します。各施設での衛生管理の徹底、安全安心な学校給食の提供に向け、お役立てください。



渉外部

渉外部は、機関誌の発行と学校給食用食品の開発、食育活動集の作成を担当しています。

1 機関誌「公益社団法人 全国学校栄養士協議会報」の発行

会報は8月と2月、年2回発行しています。本協議会の活動報告、各種大会の案内や報告、有識者の先生方からいただいた原稿、都道府県だより等をお届けします。

2 学校給食用食品の研究開発

(1) 災害時における非常食の開発

ライフラインが途絶えた中で救援物資が届くまでの「いのちをつなぐ」非常食として、「救給シリーズ」が開発されました。自然災害だけでなく、不測の事態や備蓄、防災教育等にも活用されています。

今年度は「救給ゴロゴロ野菜の煮物」の活用事例の紹介および和風ごはん物のリニューアル品「救給おいもの和風リゾット」の完成を目指します。

(2) 全学栄製品及び全学栄すいせん製品の選定と献立研究

既存の全学栄製品などの紹介や改善検討、開発を行い、学校給食献立充実のための調理講習会や親子料理教室をとりまとめています。

3 学校給食週間行事の推進

全国で実践されている食育活動を収集し、事例集を作成します。今年度は令和5年度分を発行します。

全学栄救給シリーズの紹介

- ◇ アレルギー特定原材料等 28品目は、すべて不使用です。
- ◇ 温めなくても、水がなくても、そのまま食べられます。
- ◇ 不足しがちな水分を補うことができます。
- ◇ 成長期の子供たちのために安全で、おいしく野菜もとれるように考え、国産の食材を使用しています。食品添加物は使用していません。
- ◇ スタンディングパウチの容器は、かんたんに開封できて、そのまま食器として使用できます。また、かさばらずに片付けることができます。スプーン付きです。

安心安全な国産原料を使用し、おいしく栄養のバランスを考えたカレーライスです。



食べ応えのある野菜の煮物です。たんぱく質も摂れるように「白身魚ボール」を入れました。



国産野菜と国産玄米を使用した洋食に合う汁物です。乳製品は一切使用していません。



国産野菜をたっぷり使用した、かつおと昆布の風味をきかせた和風の汁物です。



令和6年第2学期販売予定

和風ごはん物がリニューアルしました！

国産うるち米と国産野菜を使用した、かつおと昆布風味の和風リゾットです。



第19回食育推進全国大会(大阪府)に参加して

大阪府代表者 伊藤 浩美

2025年開催予定の大阪・関西万博～プレイベント～として「ワクワク EXPO with 第19回食育推進全国大会」が2024年6月1日(土)～2日(日)に大阪南港 ATC ホールにて開催されました。「いのち輝くミライ食育」を大会テーマとし、ステージイベントやワークショップ、180以上の展示・体験ブースがあり、2日間での来場者は約30,000人でした。

【めざせ! 金メダルの朝ごはん】

全国学校栄養士協議会のブースは「からだに力をあたえよう」の展示エリアにあり、子どもたちやその保護者を対象に朝ごはんに関する食育体験活動を行いました。参加者は、朝食内容の診断やクイズを通して栄養バランスのよい朝食について学び、最後には全学栄事務局手作りの金メダルがプレゼントされて、笑顔いっぱいの食育時間となりました。

大阪府学校栄養士協議会は、展示ブースへの誘導



朝ごはん診断のようす

金メダル

や朝ごはんの大切さを伝えるスタッフとして、準備を含めた3日間お手伝いをさせていただきました。ブース前には、しばしば待ち列ができる程の大盛況で、参加者は2日間で700組。金メダルを首にかけてあげるとみんながとびっきりの笑顔を見せてくれて、私たちも楽しく元気をいっぱいもらいました。

会場全体でも終始大混雑で活気に満ち溢れ、食育に関心を持つ人たちが想像以上にたくさん集まっていることにとっても感動しました。

【大阪府の給食紹介】

ブースの一部をお借りして、大阪府の学校給食を紹介しました。地場産物を使った給食や特色のある給食、給食を活用した食育など、保護者の方々や食品関係者の方々も興味深く見ていただきました。



大阪府の学校給食紹介

このような大きなイベントに参加できて、多くの方々とふれ合う時間をいただき、良い経験となりました。また、用意周到で手際よい見事なブース運営を間近で見ることができ、大変勉強になりました。遠方よりお越しいただいた全学栄の先生方・事務局のみなさま・関係者のみなさまへ、大変貴重な機会をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

第2回全国学校給食・栄養教諭等研究協議大会(茨城県)のご案内

茨城県学校栄養士協議会

令和7年度に第2回全国学校給食・栄養教諭等研究協議大会が、茨城県において開催されます。

この大会に向けて、茨城県学校栄養士協議会では大会記念品の作成をしておりません。記念品開発や発送手続等の時間を、大会での発表につながる研究の時間に当て、皆様をお迎えすることといたしました。分科会等の発表や展示等で会員の研究成果を示していければと考えております。

さて、茨城県は魅力度ランキング最下位で有名ですが、



水戸市民会館



茨城県の農林水産物には生産量日本一のものが多くあります。茨城県の野菜や果物・魚などが、日本の台所を支えているといっても過言ではありません。茨城県の食材で、懐石料理やフルコースをすべて作ることができるといわれています。

また歴史をさかのぼると、水戸徳川家は牧場を持ち、水戸藩は『食菜録』というレシピ集をまとめ、代々「食」を大事にしてきました。「黄門様」で有名な水戸藩第二代藩主徳川光圀公は、医食同源の思想に基づいて食事には漢方を取り入れ、一汁三菜を基本として季節の野菜をよく食べていたとされ、平均寿命が50歳といわれた時代に、73歳と長寿でした。

第2回全国学校給食・栄養教諭等研究協議大会は、令和7年8月5日(火)～6日(水)に水戸市民会館で開催されます。食の魅力と歴史を味わえる水戸へぜひいらしてください。

会員一同、皆様を心よりお待ちしております。

都道府県だより

地場産物・国産食材を活用した食育の推進を目指して

国の「学校給食における地場産物・国産食材の使用状況調査」のうち、令和5年度の5日分のデータによると、東京都は地場産物を使用している割合が8.8%、国産食材を使用している割合が90.6%という状況にあります。自治体によって使用できる地場産物に差があるため、東京都では都心の学校の学校給食に農産物を供給する「とうきょう元気農場」を平成23年より導入し、畑のない自地体でもじゃがいもやたまねぎ、さつまいも等の地場産物を活用できる制度があります。

また、東京都独自の取組として、米粉パンを主食とし、

それに合う国産食材を使用したおかずを給食で提供するとともに、給食時間の放送、農家との交流活動や国産食材に関する出前授業等の取組を栄養教諭、学校栄養職員が中心となり、学級担任と連携して実施しました。

今後も東京都の地場産物や国産食材を活用した学校給食の提供を推進し、自然や文化、食に係る産業等に対する児童・生徒の理解の増進を図り、豊かな人間性の育成を目指して、食に関する指導の充実に努めてまいります。

東京都代表者 仲川 佑季子

学びの場となる協議会を目指して

兵庫県学校栄養士協議会は、今年度8ブロック301名の会員を有し、「生きる力を育む食育～一体化した給食管理と食に関する指導の充実に向けて～」を研究テーマに掲げ、会員の資質向上と学校における食育を推進するための活動を行っています。

年に3回実施している研修会では、コロナ禍を経て、オンライン開催や後日配信を取り入れるなど、より多くの会員が参加できるような工夫をしています。

昨年度は、科学的根拠に基づいた子どもの偏食についての講演や、効果的な個別指導を行うための理論やカウンセリングマインド、低アレルゲン献立を実施している自治体の食物アレルギー対応の取組など、個別

的な相談指導の資質・能力の向上を図るための内容に重点を置いた研修会を実施しました。また、世界の子どもたちを取り巻く現状を知るなど、専門性を高めると同時に視野を広げられるような内容も取り入れました。

2月に開催した会員による研究発表会では、ローリングストックなどを取り入れた「災害時の食事についての授業実践」や、食育を効果的に推進するためにclassroomやgoogle formを取り入れた「ICTの活用」の2つの取組について内容を共有しました。

今後も、食に関する自己管理能力を身に付け、こころ豊かで自立する児童生徒の育成のため、会員一同研究に取り組んで参ります。

兵庫県代表者 重廣 珠世

児童生徒の健やかな成長を育むために

佐賀県学校栄養士協議会では、年2回の研修会を行い、会員の資質向上を図っています。研修内容は、「調理講習会」と「指導力向上」です。

昨年度の調理講習会では、学校給食における減塩に重点を置き、「大規模給食センターでも実施可能な減塩の工夫と栄養強化の献立」をテーマとし、実技研修を実施しました。岩島由美子先生にご指導いただき、和え物は、先に海苔や鰹節等で和えてから調味することで調味液の減量につながることや、カレー粉等の香辛料を使用することが減塩につながることを学ぶことができました。今年度は「鉄・カルシウムを摂取できる献立」をテーマに研修を行う予定です。

指導力向上については、昨年度はICTを活用した指導教材を作成する演習を行いました。今年度は、偏食傾向の子供について理解を深め、個別的な相談指導に生かせるよう、県内の特別支援学校の先生から講演をいただく予定です。

年2回の研修会ではありますが、日頃の業務について気軽に相談し合える、貴重な交流の場にもなっています。

これからも、各会員がその時々々の課題に対応する能力を身に付け、児童生徒の健やかな成長に寄与できるよう取り組んでまいります。

佐賀県代表者 吉本 亜記